

陳 情 文 書 表

(子ども若者はぐくみ局)

受 理 番 号	3 2 4 9	受 理 年 月 日	令 和 4 年 9 月 15 日
件 名	民間保育園等職員の給与等運用事業補助金再構築後の制度の見直し		
要 旨	<p>民間保育園等職員の給与等運用事業補助金が再構築され、5か月がたった。各職場では、今年度は積立金を取り崩して何とか現状維持するが、来年度以降の職員体制や雇用、給与については見直しをせざるを得ないと法人から言われている。障害児の受入れや宗教食に対応した細やかな給食を作っていた園は、これ以上職員が減ってしまったら、その丁寧な保育が維持できないのではないかと不安が募り、保育者のモチベーションも保てなくなっている。</p> <p>民間保育園等職員の給与等運用事業補助金再構築後の制度は、現行の保育士の給与水準は全体として維持・充実し得る予算額を確保するとされているが、実際は、このままでは今までどおりの保育を保障することができない。</p> <p>京都市長の言われる全国トップレベルの保育とは一体どういうものなのか。そもそも従前の民間保育園等職員の給与等運用事業補助金は、他の自治体と比べても圧倒的に公立保育所が少ない京都市で、公立で働いても民間で働いても同じ処遇を保障することで、質の高い保育を維持しようということで作られた制度である。児童福祉法第24条第1項に基づき、自治体が責任を持つべき保育を民間に委託する上で当然だと当時の京都市が判断したからこそその補助金制度だったはずである。保育者が安心して働き続けられないと質の高い保育は維持できない。</p> <p>2022年2月市会では、民間保育園の補助金については、実施後に十分な検証を行い、状況によっては影響の緩和等必要な措置を講じることとの付帯決議が出された。この付帯決議に基づき、私たちはこの補正予算までに各園から丁寧な聴き取りを行い、何らかの手立てを打っていただけるものだと思っていた。今取り組んでいる「民間保育園で働く保育者の思い」アンケートでは、既に回答者の8割が仕事を辞めたいと思うことがあると答え、9割を超える人がこのままの処遇では働き続けられないと回答している。このままでは京都の保育が崩壊する。各園ごとに法人理事長、園長、職員それぞれから丁寧な聴き取りを行い、今までの保育が維持できるよう緊急に必要な措置を講じていただくことを切に求める。</p> <p>ついては、民間保育園等職員の給与等運用事業補助金再構築後の制度について、各園ごとに運営側・職員側双方から丁寧な聴き取りを行い、これまで守ってきた質の高い保育が維持拡充できるように緊急に必要な措置を講じることを願う。</p>		
陳 情 者			
回 付 委 員 会	教 育 福 祉 委 員 会		